

## 第2回検討委員会（2020.2.17）資料

### 「高校生の登山のあり方等」への提案

作成：毛塚辰幸

#### 1 第1回検討会で意見

- ・那須雪崩事故は人災である。生徒と教員に命をかけさせてまで登山部活動を行う必要はない。
- ・顧問教師には高いレベルの判断力が求められる。しかしほとんどの校長や保護者は、顧問の力量が判断できないまま、指導を委ねている。こうした中で登山部は行われている。
- ・現在の顧問が指導するやり方には様々な問題がある。専門家チームが指導する新しいシステムにすべきである。

#### 2 第2回の意見1「今後の登山のあり方、新しいシステム実施への要望」

[県教委]

**(1) 県教委は、専門家チームを立ち上げ、県内の希望者を一堂に集め、専門家チームが企画から運営まで行う、新しいシステムを構築し、より安全な登山活動を提供してほしい。**

- ・校外での登山活動については、顧問が生徒を引率する現在のやり方を中止し、専門家チームが、その専門性を生かし、企画から運営までを行うシステムに移行させることで、より安全性のある活動を生徒に提供してほしい。
- ・新しいシステムでは、責任をとれる県教委と県内外の山岳関連組織等とが連携するなど、学校と民間が協同し、それぞれの良さを発揮することができる。
- ・県内の希望者を一堂に集め専門家チームが指導することで、顧問の力量による指導差はなくなり、参加生徒の技能や体力にあった活動等を提供できる。
- ・参加は希望性となり、本人や保護者の判断が入る余地ができ、登山の危険性への認識が深まる。
- ・顧問は、新システムでは、チームの一員として加入することで、事前の指導や助言を行うことができる。また、生徒指導的場面において、教員としての役割を果たせる。

[学校]

**(2) 校長は、次年度以降、登山部の部員募集を中止してほしい。**

- ・生徒と教員が命を落とす危険のある部活動を、今のままで継続する必要性があるとは思えない。
- ・募集中止をするのは、現在登山部がある学校（12校）と休部（2校）の計14校である。
- ・ある校長は、本事故で学校も被害者であると発言した。遺族は、部活で事故が起こり、息子の命が奪われたにもかかわらず、被害者であると考えている学校が、今後も登山部を継続していることに、承服しかねる。

**(3) 校長は、現部員の活動のために、顧問が生徒を引率、指導する現在のやり方は中止し、県教委が行う専門家チームによる新しいシステムに参加できるようにしてほしい。**

**(4) 校長は、登山部顧問を配置しなければならない場合、教員の登山経験や指導力を精査し、適切に指導できるかを見極めた上で、本人の希望を尊重し、配置してほしい。**

- ・校長は、教員の登山経験、技量、危機管理能力等を精査し、生徒の命をあずけられる力量があるかを判断した上で、配置すべきである。
- ・校長は、登山の経験の浅い者であっても、研修や経験を積みれば適切に判断等ができるよう

になるという楽観的な認識で、安易に顧問を決定し、配置しないでほしい。

- ・顧問が異動した場合、希望しない者や危険性がよく分からない未経験の若い教員等を、穴埋め的に配置することは、やめてほしい。

(5) 校長は、現部員やその保護者に対し、登山の危険性、年間計画等を毎年事前に周知した上で、生徒の入部継続の意思を確認してほしい。

(6) 教員は安易に登山部顧問を引き受けないでほしい。顧問のなり手がなくて、校長等から打診されても、自信のない教員は引き受けないでほしい。

- ・本事故は 30 年近い顧問経験者数名がかかわって起きた事故である。顧問経験年数が豊富であっても判断を間違い、生徒の命を危険にさらすことが起きてくる。顧問経験があることだけで、生徒を軽率に山に連れて行くことはしないでほしい。教師は、最悪の事態に対応できる技量や経験があるか、指導者としての自分を厳しく評価してほしい。

[高体連、登山専門部]

(7) 高体連、登山専門部は、校外での生徒の登山講習会等は、次年度以降中止してほしい。

- ・高体連、登山専門部は、本事故の責任が自分達にあるという認識が希薄である。真摯な反省と組織課題の改善等がほとんど進んでいない。トップは任期が終了すれば、責任を取らなくてよい仕組みになっている。そのような組織が生徒の命をあずかる登山活動を行うことを、遺族は容認できない。
- ・登山専門部が行う登山講習会は、集められた顧問が指導するシステムであり、学校単独での部活動と同じやり方である。

### 3 第 2 回の意見 2 「調査の依頼」

(1) 登山が盛んな海外では、高校生等はどのように登山を学んでいるのか、その場合指導者はどのような資格を有した指導者が指導しているのか、調査してほしい。

(2) 現在登山部のある学校 (12 校)、休部校 (2 校) について、①次年度も登山部員の募集を行うか、②募集を行うのはどのような理由によるのか、③どのような方法で募集するのか、これらを調査してほしい。

### 4 第 2 回の意見 3 「アンケートのまとめ」(別添資料 1)

### 5 第 2 回の意見 4 「第 1 回配布の資料 1-1 「…学校安全のための取組の実施状況」への質問」(別添資料 2)